



### 山行報告

#### 籠ノ登山・湯ノ丸山(6月18日～19日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

6月18日

小諸駅まで迎えに来てくださった湯ノ丸ロッジの車に乗って地蔵峠に向かう。峠の少し下からレンゲツツジが咲いていて、歓声が上がる。

ロッジで昼食をいただき、地蔵峠に向かう。カッコウの声が近くで聞こえ、誰かが「横断歩道が近くにあるの?」とまじめに聞いていた。

地蔵峠のレンゲツツジは8分咲きくらいだろうか? リフトの脇を歩いて登る。足下には、シロバナノヘイチゴやキジムシロなどがたくさん咲いている。先頭は、ぐんぐん登っていったが、こちらは周囲の花を楽しみながら登る。コイワカガミ、ベニバナイチヤクソウ、ツマトリソウなどが咲いている。レンゲツツジは、とても濃い色をしている。



つつじ平にて

つつじ平は、まだ花が咲き始めたばかりで、残

念だったが、ここが満開になったら、一面の朱色に染まることだろう。足下には、クサボケやマイヅルソウ、ミヤマキンポウゲ、スズラン、タチツボスミレ、ツマトリソウが咲いている。次第に傾斜を増してくると、ムラサキヤシオツツジやコケモモ、ミツバオウレンも咲いている。

山頂に着いたが、残念ながらガスに巻かれていた。昨年から3回目の山頂だが、展望に恵まれたことが一度もない。どうも相性が良くないようだ。記念写真を撮影して、烏帽子岳方面に下る。下り始めるとガスが少し晴れはじめた。足下には、ツガザクラも咲いていた。鞍部から地蔵峠に向けて登山道を行く。途中、レンゲツツジの群落があり、写真撮影をして楽しむ。

夜のロッジは、オカリナの演奏や歌と踊りで楽しんだ。

6月19日

今日は、早起きをして早朝バードヒアリングを楽しむ。カッコウ、ホトトギス、ホオジロ、ヒガラ、アカハラ、カワラヒワ、キセキレイなどが近くで歌を披露し、遠くでツツドリやジュウイチも聞こえた。アカゲラだろうか、すぐ近くでドラミングが聞こえ、視覚障害者のIさんも楽しんでた。

美味しい朝食をいただき、車で兎平まで送っていただく。

朝日が差し込み、新緑がさわやかな光に包まれている樹林の中を、のんびりと歩く。足下には、コイワカガミやミツバオウレン、ツマトリソウなどがたくさん咲いている。遠くでは、ジ

ユウイチの声やツツドリの声もした。ホトトギスやカッコウは、はっきりなしに聞こえている。



イチヨウラン

ザックを下ろして休憩していると、見慣れない小さな花が咲いていた。後で聞いたらイチヨウランだった。始めて出会ったランの仲間感激し、写真を撮って、山頂を目指す。

箆ノ登山の山頂付近は、ピンズイの天国だった。さえずり飛翔を繰り返し、時折、ツイーツイーというピンズイのさえずりの特徴が入る。山頂では、Nさんのオカリナを聞く。Nさんのオカリナは、すっかり定番となった。

山頂を後にして、水ノ塔山に向かう。稜線は少し痩せていて、気を使って通過する。足下にはキバナノコマノツメが咲いている。こちらにはレンゲツツジが全くないが、代わりにアズマシャクナゲが次々に現れ、すばらしい色合いで楽しませてくれる。アズマシャクナゲは、朱の濃いものから白に近いものまでいろんな色で楽しませてくれる。地味なタケシマランの花も咲いていた。コケモモやツガザクラもたくさん咲いていて、花のオンパレードだ。

水ノ塔山の山頂で少し早いお昼にしていると、雨がポツポツ落ちてきた。雨具を付けて、

## 源治郎沢右俣(6月26日)

参加者 会員(健常者4名)

渋沢駅でHさんの車に乗せてもらい、大倉でAさんと合流して、Hさんの車で戸沢まで入ってもらう。歩いたら1時間以上かかるところを車で送っていただいたおかげで、時間を大幅に

山頂直下の岩場を下る。岩が大きいので、慎重にサポートして、全員無事に通過する。岩場を下っていると、目の前にホシガラスが止まってくれた。普段見るものよりも、茶色だった。まだ若かったのだろうか？



アズマシャクナゲ

高峰温泉に着いて、汗を流し、疲れを癒す。温泉の前の餌台には、ホシガラスやキジバトが来ていた。帰りの車道脇には、レンゲツツジの群落があり、とてもきれいだった。帰りの高速バスの中で、登山は初参加のMさんが、早朝の野鳥のさえずりのシャワーが素晴らしかったと言っていた。山に泊まらなければ、出会うことのないすばらしいひとときと感じたようだった。

## コースタイム

6/18 湯ノ丸口(13:30) ... 湯ノ丸山(15:40,15:55) ... 烏帽子岳との鞍部(16:35,16:40) ... 湯ノ丸口(17:50)

6/19 兎平(8:20) ... 箆ノ登山(9:35,10:10) ... 水ノ塔山(11:40,12:10) ... 高峰温泉(13:35)

短縮でき、感謝の気持ちで一杯です。

戸沢で足ごしらえなどを済ませ、源治郎沢に向かいます。書策新道を少し歩き、堰堤の上で源治郎沢に下り立ちます。最初の4m滝を水流の左側から快適に登る。

続いて現れる5m、3m、5mの連続する滝をここも快適に登る。最後の5m滝はF2だっ

だが、水流の右側を登った。ただ、少し滑りやすいので注意を要する。



水しぶきを浴びて滝を登るHさん

続いて現れる3段10mの滝は、ザイルを出し、Aさんにトップで登ってもらう。続いて私もトップで登り、NさんとHさんに続いてもらう。

その後も現れる小さな滝を気持ちよく越えると、F4が現れた。水流が二手に分かれて落ちてくる滝で、左側のカンテ状の乾いた岩を登る。上部の大きな岩を右に回り込むところが悪そうに見えたが、以外と簡単に越えられた。ここもザイルを出して突破。

二俣を過ぎて現れたF5は、6mの滝であろうか、左右どちらにもルートが取れそうで、先行パーティーが右側を登っていたので、私たちは左壁を登ることにする。こちらは、ハーケンにシュリングがぶら下がっている。まずはHさんにトップで登ってもらう。続いて私が登るが、見た目より垂直で、岩も滑りやすく手強かった。ぶら下がったシュリングを使って、A0で登る。ここも、ロープを出して全員クリア。

そろそろ水量が乏しくなってきたので、水が涸れる前に昼食にする。休憩していると、クロツグミの声だろうか、リズムカルな声が近くで聞こえた。ツツドリやヒガラの歌声も聞こえる。遠くの樹木の花にアサギマダラがひらひら舞いながら蜜を求めていた。

登り始めるとすぐにF6が現れた。この付近からチムニー状の滝が続くのだろうか。すでに水は涸れているが、見た目より難しい滝だった。

だが、ザイルは使わず快適に越えていく。

最後のチョックストンの滝は滑りやすくなかなか手強かったが、左側の壁に残置されたシュリングを使って登る。ここを過ぎて、小さな滝を越えると、草付きに踏み跡が現れる。いくつかの踏み跡ができてはいるが、どれも稜線に向かっているようだ。最後に岩峰のようなところを登ると、見晴しが良くなり、三ノ塔がよく見えた。そこからさらに踏み跡をたどると、大倉尾根の登山道に出た。私たちは間違っただけで花立が上にあるものと思い、登って見たが間違いだった。下の方に青い屋根があり引き返す。山荘で休憩し、Nさんが寄りたいたいという堀山の家を下る。ここは、ほとんどボランティアのみなさんで運営されているようだ。小屋の前に缶ジュースがあり、1本100円でどうぞと書いてある。

下界よりも安いので、みんなで買って喉を潤す。

ここからは、流れの沢を下る。堀山の水場を下るルートを使わせてもら

い、ぐんぐん高度を下げる。沢に降りて、美味しい水を飲み、ゴーロ状の沢を下る。途中、滑り落ちそうな嫌なところをだましながらいり、最後の滝は懸垂下降で下った。堰堤を二つほど下ると、戸沢の駐車場に着いた。

### コースタイム

戸沢(9:50)...源治郎沢出合(10:05)...F4(10:45)  
...二俣(11:15)...F6 下(11:50,12:25)...F10 上  
(13:00,13:05)...花立山荘(14:05,14:15)...堀山  
の家(14:40,15:00)...戸沢(16:00)



懸垂下降で滝を降りるAさん

## 大雪山(6月30日～7月4日)

参加者 会員(視覚障害者1名、健常者5名)

6月30日

曇り空の羽田から飛行機に乗り、一路旭川へ。飛行機が着陸態勢にはいると、右手間近に十勝連峰から大雪山の山々が手の届く近さを感じられ、大歓声上がる。大雪山へ向かう気持ちが、否が応でも高まった。

旭川駅前にある西武デパートのスポーツ用品売り場で、ガスカートリッジを購入して、バスで層雲峡に向かう。層雲峡からは、タクシーで銀線台ヒュッテに向かう。途中、流星の滝や銀河の滝を見物させてもらう。また、ヒュッテの手前で、タクシーの運転手さんが、車を止め、ここからの朝の雲海が見事だと教えてくれる。

ヒュッテに着き、豪勢な夕食を食べる。このヒュッテは、今年で営業をうち切るそうで、記念にということで、フクロウやキタキツネなどの描かれたコースターのようなものをもらう。とても大らかそうで、親しみの持てる管理人さんだった。

7月1日

4時に起きるとすでに日の出の時間だった。今日もすばらしい天気だ。薄い雲海が谷間を埋め、ニセイカウシュッペ山や石狩岳がよく見える。小屋の管理人さんが、遠くに見える富士山のような形の山は雌阿寒岳だと教えてくれたが、ちょっと違うのではないかと疑問に思った。ただ、はっきりした答えは見つからない。

小屋から作ってもらったおにぎりを食べ出発する。小屋の前には、早速エゾイチゲが咲いていた。歩き始めるとすぐに雪が現れ始め、雪解けのところにはふきのとうが顔を出していた。

少し登ると、イソツツジの群落やミツバオウレンが現れ始めた。第1花園の付近は多くの残雪があった。雪の斜面をトラバース気味に登るため、私は弱視のMさんとロープで結び合い、登ることにする。他の人たちは、軽アイゼンを付けて登る。アイゼンを付けていると、ウソが真っ赤なほっぺをみんなに見せてくれた。ショウジョウバカマも近くに咲いていた。

慎重に雪渓を通過すると、第2花園付近になる。ナナカマドの樹林の中を歩いていると、突然赤い鳥が横切った。番のギンザンマシコだった。次の雪渓を登りきると、コマクサ平だった。コマクサやチシマキンレイカが咲き始めていた。前日、銀線台ヒュッテで同宿した方は、蝶の専門家で、昨日ここまで来て、高山蝶のウスバキチョウなどをたくさん見たというので、私たちもぜひ見たいと目を皿のようにして探すが、見つけれなかった。

コマクサ平からは、ちょっと急な雪渓を登る。登り着いたところが奥ノ平だ。イワウメの群落がすばらしく、赤く染まっているのはミネズオウだ。さらに登ると、キバナシャクナゲの群落があり美しい。まだ、咲き始めて間もないのだろう、匂で生き生きとしている。

赤岳に着くと、展望が一気に開ける。黒岳から北鎮岳に至る山々が手に取るように見える。足下には、エゾタカネスミレが咲き、エゾノツガザクラも咲き始めていた。

赤岳から小泉岳の間は、どこまでも続くイワウメのお花畑だ。そして、ホソバウルップソウも群落を作っている。そしてメアカンキンバイもたくさん咲き、白と青と黄色の花が百花繚乱だ。広い小泉岳の山頂に立つと、目の前に白雲岳が見え、南の方には遠くこれから向かうトムラウシ山が見えてきた。

小泉岳からコルに下ると、小さな子どもがいた。この子は、4歳でおじいさんと2人で来た

そうだ。コルにザックを置いておくとカラスやキタキツネにいたずらされるので、重いのを我慢してそのまま担いで白雲岳に向かう。

この登路にはエゾオヤマノエンドウやハクサンイチゲも咲いていた。一登りで山頂直下の平坦地に出るが、ここはアースハンモックという周氷河地形や湖岸段丘と呼ばれる地形だ。ここには雪解けが進む5月中旬に忽然と湖が現れ、6月上旬には消えるという。これは、積雪の少ないこの場所が冬の厳しい寒さに晒されているため、土の中の水分が凍り付く「凍土」という現象が深く関わっているという。凍土があるために、雪解けの水は土中に染み込まず、湖となる。しかし気温が上がると凍土が溶け出し、水が土中にこぼれるように染み込んでいき、湖はあっけなく消滅する。ほんの短い間だけの不思議な現象、自然の営みのおもしろさに驚く。



最後の雪渓の登り口にザックを置いて、空身で山頂に向かう。山頂に着くと、旭岳が正面に見える。手前の雪渓と地面の織りなす縞模様が芸術的ですばらしい。この付近には、高山蝶のウスバキチョウも舞っていたようだ。遠くのトムラウシ山などの展望を楽しみ、引き返す。さっきの子どももおじいさんと2人で登ってきた。4歳で少し急な雪渓の上を歩く姿に、将来が楽しみに感じた。

コルから避難小屋に向けて下り始めると、アゲハチョウが地面にへばりついて飛び立てないでいる。よく見ると黒地に緑色と青色の蛍光塗料の粉末をちりばめたようなその美しさは、



ミヤマカラスアゲハであろうと思われた。残念ではあるが、ここで寿命を全うすることになるだろう。

雪渓を下り始めると白雲岳避難小屋が見え始めた。丘の上にぽつんと立っていて何とも趣のある小屋だ。夏の間は管理人さんがいるので1000円を払い泊めてもらう。しばらくして小屋の外に出ると、シマリスが走り回って遊んでいた。

7月2日

前日の夕方、雲が広がってきたので心配したが、雲が多いものの雨の心配はなく、これから向かうトムラウシ山も見えていた。



小屋から少し下り、どこまでも平坦な高根ヶ原に向かう。足下には、ジンヨウキスミレも咲いていた。エゾノハクサンイチゲもきれいに咲いていた。高根ヶ原は、本州の山にはない非常に広い平原だ。ここは冬の間、風が強いいため雪が積もらず、低温に晒される。そのため凍土になるが、夏の間も完全に溶けきらず、永久凍土の

部分があるという。

この平原はまた、どこまでも続くお花畑だ。チングルマ、イワウメ、エゾノハクサンイチゲ、キバナシャクナゲなどの白系の花、メアカンキンバイやミヤマキンバイ、そしてキバナシオガマなどの黄色系の花、ミネズオウやエゾノツガザクラ、エゾコザクラなどの赤系の花、そしてホソバウルップソウやエゾオヤマノエンドウの紫系の花と、次々に現れて、とぎれることがない。もうちょっとした花園では驚かなくなってしまうことが、残念といえば残念か。



本州にはないキバナシオガマ

高原温泉分岐を過ぎ、なおも平坦な尾根を行くと、ようやく中別沼に着く。少し離れたところにエゾノリュウキンカが咲いていた。小さな水たまりでYさんがサンショウウオを発見した。帰って確認してみるとたぶんエゾサンショウウオではなかったかと思う。

ここから忠別岳への登りになる。少し遠くに鳥がいるというので見ると、鷲鷹の仲間だ。双眼鏡がなくて、はっきり分からなかったが、のど元の白さからハヤブサではなかっただろうかと思う。さらに、なだらかだが長い登りを頑張って忠別岳に立つ。山頂付近もコマクサなど多くの花が咲き、すばらしいところだった。これから向かう五色岳、化雲岳の遠さにみなさん驚くが、下り始めるとそれほどでもないように思われた。しかし、ハイマツが行く手をふさぎ、まさにハイマツの海を泳ぐような道となる。忠別岳避難小屋への分岐に着くと、ヒサゴ沼から来た人たちと出会った。なんと、今日初めて会

う登山者だった。これから先もハイマツの海がすごいという。足下にはミツバオウレンも咲いているが、小さな虫がたくさんいるハイマツの中は、大変だ。ザックが引っかかり、引き替えされたりしながら、ぐいぐい登ってやっと五色岳に到着する。ハイマツもここで終わりかなと思ったが、まだまだ続いた。それでも頑張って歩いていると、木道が現れ、化雲平に到着した。ここは、キバナシャクナゲやホソバウルップソウ、エゾコザクラなどすばらしいお花畑だった。

ここから、化雲岳に登らずトラバース道を行くことにしたが、雪渓でガスに巻かれてしまい道が分からず、結局化雲岳の山頂に立つことになった。化雲岳から神遊びの庭を抜け、雪渓を下ってヒサゴ沼避難小屋に着く。先客が一人いた。この方は、石狩岳の方から縦走してきたらしい。

私たちが外で夕食の準備をしていると、先客の方が来て、雪渓にヒグマがいるという。よく見ると、小さな四つ足の動物が、すごいスピードで雪渓を駆け上っている。先客さんの話では、避難小屋の前がヒグマの通り道だったが、私たちがいたため、避けるように雪渓を登っていったのだそうだ。突然のことで、写真にもビデオにも収められなかったが、山中でヒグマに会い、私は得をした気分だった。

7月3日

昨日は、もう1パーティーが小屋に泊まったが、空いていてゆとりだった。

今朝は、雲一つないすばらしい天気だった。Yさんご夫妻は、夜外に出て、満天の星空を楽しんだそうだ。天の川が悠然と流れていたらしい。

朝食を済ませ、ヒサゴ沼の畔を歩いて、さらに急な雪渓を登って、尾根に出る。振り返るとヒサゴ沼とその向こうに見える石狩岳が美しい。岩場では、ナキウサギが「キッキッ」と鳴いているが、姿は見えなかった。



ヒサゴ沼と石狩連峰

ここから大きな岩がゴロゴロある視覚障害者のMさんにとって危険なところが次々に現れ始める。とにかく石から落ちないように、慎重に進む。厳しい場所になったり、登りにかかるとカッコウが鳴き、なんとも「アッホー、アッホー」とバカにされているようで、力が抜ける感じだ。しかし、岩場の間に現れるお花畑は、今までに勝るとも劣らず、すばらしかった。日本庭園やロックガーデンを越えると、トムラウシ山の山頂が目の前に現れる。その下には、北沼が残雪を落とし込み、空の青さと雪の白さをブレンドしてエメラルドグリーンに見えている。山頂へ向かう道から見下ろすと、手前のお花畑と青い北沼、そして残雪の白がすばらしい風景を作り出していた。



美しい北沼とお花畑

岩の道を慎重に越え、山頂手前の大岩を手助けしながら超えると、そこはトムラウシ山の山頂だった。これから向かう方向には、山頂を雲に隠した十勝連峰が見えていた。左手に目を落とすと、そこはお釜となっていて、初めてトムラウシ山が古い火山であることを知った。記念写

真を撮って下山にかかる。途中で出会った人たちから、トムラウシ山の厳しさをいろいろ聞い



長い縦走の最後のピークトムラウシ山にて

ていたので心配していたが、さほど悪い箇所もなく、高度を下げていく。山の南面もイワウメなどの花が多い。トムラウシ公園から一登りで尾根に上がり、そこで昼食にした。さらに下って前トム平から岩場の急な斜面を下る。近くでノゴマやピンズイが盛んにさえずり、ミソサザイも姿を見せてくれた。コマドリ沢に下り立つ頃から雪渓となり、みなさんにはアイゼンを付けて下ってもらう。

しばらく行くと、最近できた道が右側の尾根に向けて登っていた。途中で聞いた歩きにくい道だったが、特に悪いところはなかった。尾根に上がると快適な道が続いている。ただし、傾斜が緩くて、いつまでたっても下っていかない感じだ。ようやくカムイ天上に着き、今晚の宿「東大雪荘」に電話を入れる。

ここからしばらく行くと短縮コースを左に分ける。私たちは真っ直ぐ東大雪荘に向かう道を進む。しかし、この道が悪かった。人が歩いていないようで、次ぎ次ぎに大きな倒木が現れる。木の下をくぐったり、またいだり、脇の笹藪から避けたり、20回くらいはあったろうか、疲れ果てもううんざりと思う頃、ようやく傾斜が強くなって下り始めた。下り初めてからは早く、林道が現れ、それを越えて少し歩くと東大雪荘だった。

疲れた体を温泉で癒し、何日ぶりのビールだろうか乾杯して労をねぎらい合う。さすがに久

しぶりのビールは五臓六腑に染み渡り、すぐに酔いが回ってきた。

7月4日

長かった大雪山の縦走も終わった。最終日は、新得までタクシーで出て、そこから富良野に向かった。新得周辺は雨が降っていたが、富良野の近くに来ると青空が広がり、すばらしい天気となった。ただ、風が強かった。私たちは、ゆっくり走る列車の「ノロッコ号」に乗り、臨時のラベンダー畑駅で下車し、ファーム富田で観光となった。切ったメロンを100円で食べられるというサービス券を持っていたSさんと、Yさんがおみやげを買ってくれたこととで、何とかねばって全員が100円でメロンにありつけた。Sさん、Yさん、ありがとうございます。ラベンダー畑から、十勝連峰や大雪山がよく見えた。旭川からは、さらに旭岳からトムラウシ山まで手に取るように見え、歩いてきたコースを振り返った。私はまた来ることがあるかも知れないけど、みなさんにとって、きっとこ

## 大菩薩嶺(7月10日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)

日曜日が近づくにつれて天気予報が良くなり、東京は晴れ間が見えていた。ただ、塩山はどんよりとした雲に覆われて、ちょっと展望は期待できそうにない。

塩山から予約していたタクシーで福ちゃん荘まで登ってもらう。福ちゃん荘までは、タクシーでないと入れないため、時間短縮にはありがたい。福ちゃん荘で、早速ホトトギスの声に迎えられ、歩き始める。霧が立ちこめ、幻想的な樹林帯の中を、今日は静かに歩く。いつものにぎやかな声が聞こえず、こんな静かさも時に

れが最初で最後の大雪山縦走になるだろう。視覚障害者のMさんは、自分の生涯でもっとも大きなことを達成できたと感慨に浸っていた。

重い荷物と長い行程を歩き抜き、お疲れさまでした。瞼を閉じると、どこまでも続くお花畑がよみがえってきそうです。

## コースタイム

- 7/1 銀線台ヒュッテ(5:00) ... コマクサ平(7:05,7:25) ... 赤岳(9:10,9:35) ... 小泉岳(10:10,10:35) ... 白雲岳(11:20,11:40) ... 白雲岳避難小屋(13:05)
- 7/2 白雲岳避難小屋(4:40) ... 高根ヶ原分岐(6:15) ... 中別沼(8:35,9:00) ... 忠別岳避難小屋分岐(11:05,11:35) ... 五色岳(12:30,12:40) ... 化雲岳(14:20,14:25) ... ヒサゴ沼避難小屋(15:10)
- 7/3 ヒサゴ沼避難小屋(4:30) ... トムラウシ山(9:20,9:35) ... 前トム平(12:00) ... コマドリ沢登り口(13:05) ... カムイ天上(14:40) ... 短縮コース分岐(15:35) ... 東大雪荘(17:15)

は必要かも？

花が少なく、つい足早になる。途中1度の休憩を交えて、大菩薩峠に到着する。介山荘の脇に立派なトイレと休憩所ができていた。介山荘では、100円の桃が売られていて、盛況だっ



歴史で有名な大菩薩峠

た。峠の看板の前で記念撮影を撮って出発する。この峠から見た富士山の写真は、古い500円

札に使われていたそうだ。今日は、ガスに撒かれて見ることができない。

稜線は、風が強かった。岩混じりの尾根を登っていくと、賽の河原に到着する。ここには無人の小さな小屋も建っていた。賽の河原を過ぎ、しばらく行くとピンク色のきれいな花を発見した。これが今回の一番目的だった花、ニョホウチドリだった。強い風をみなさんから避けていただいて、写真を撮影する。



ニョホウチドリ

ここからさらに登っていき、振り返ると、一瞬だが霧が晴れ富士山が見えた。このときから次第に霧が晴れ、視界が利いてきた。富士

山は大きく聳えて墨絵のようなシルエットを楽しませてくれる。足下には雲海が広がり、遠くに南アルプスの地蔵岳も見えた。

展望を楽しみながら登っていくと、ニョホウチドリがたくさん咲いているところに出た。テガチドリも咲いていた。他にも、シモツケやヤマハハコも咲き始めていた。また、サラサドウダンはもう終わりだが、わずかに花を付けていた。また、ベニサラサドウダンにも出会えた。鳥たちは、カッコウやカケス、ヒガラが鳴き、ビンズイは姿を見せて歌ってくれた。

昼食は山頂で取ったが、ここは展望がなかった。また、ブヨなどの虫が目の前をうるさく飛び、どこからか犬もついてきて、餌をねだって

いた。記念写真を撮って、早々に山頂を後にする。ここからの道は、楽だと思っていたが、意外と歩きにくい道だった。樹林帯を何度かトラバース気味に歩いていると、巣箱からヒガラが出入りしていた。登山道のすぐ脇なので、脅さないように注意したが、可愛い姿が楽しませてくれた。



墨絵のような富士が見えた

予定より少し遅れて丸川峠に到着。ここからも富士山がよく見えた。峠の丸川荘は営業していた。ここからの下りは、過去の記憶が間違っていたようで、かなり悪いところが多かった。視覚障害者のIさんも、今回はかなり疲れたようだった。しかし、それでもミヤマカラマツやイチヤクソウの花が楽しませてくれ、オオルリやコマドリ、メボソムシクイなどの歌声が聞こえてきた。

予定より、少し遅れたがバスの時間前に裂石に到着。バス停前の番屋茶屋さんからお風呂の情報を知り、塩山駅の近くのお風呂に行くことにした。汗を流し、空腹を満たして、遅い電車で帰宅の徒についた。

#### コースタイム

福ちゃん荘(10:15)...大菩薩峠(11:05,11:25)...大菩薩嶺(12:35,13:00)...丸川峠(14:30,14:35)...裂石(16:50)

### 立山・奥大日岳(7月29日夜～8月1日朝)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

会員外(健常者1名)

7月30日

7月29日の夜行急行「能登」で富山駅に着き、コンビニで朝食などを買い込んで、電車で立山駅に向かう。立山駅からケーブルで美女平へ、さらにバスで室堂に向かう。富山駅に下り立った時はどんよりとした曇り空だったが、立山駅に着く頃にはうっすらと青空も見え始めてきた。バスの中から立山杉や称名滝を見物し、弥陀ヶ原に着く頃には青空が広がり、薬師岳がよく見えていた。



並んだヨツバシオガマ

室堂バスターミナルを出ると早速ヨツバシオガマやタテヤマリンドウ、チングルマ、コイワカガミなどが出迎えてくれる。ただ、周囲の山々は、雲の中で姿を確認することはできない。ミクリガ池に着く頃、何か動いたと思って振り向くと、オコジョが石畳の上にいた。しかし、あっと思うまもなく、茂みに姿を隠してしまった。

雷鳥荘に着き、不要な荷物を預かってもらい、奥大日岳に向かう。石の階段を下り、テント場となっている雷鳥平を過ぎると木の橋を使って沢を渡る。サポートをしているため、落ちないように慎重に通過する。

ここから別山乗越への道を分け、緩やかに登っていく。コバイケイソウが咲き乱れ、ハクサンイチゲやチングルマも満開だ。ミヤマキンバイ、ミヤマキンポウゲなど黄色の花も咲き、赤いクルマユリも咲いていた。

次第に傾斜を増してくると残雪が行く手を

ふさいでいたが、残雪上部の雪と地面の境目（ベルクシュルント）の中に入り込んで越える。この残雪を越えると、ほどなく室堂乗越に到着した。ここで、昼食にする。残念ながらガスに巻かれて、何も見えない。



やっと見つけることができたクロコリ

乗越からも緩やかに登っていく。カガミタン乗越という小さなピークを過ぎるとこれから登る山が目の前に現れてきた。奥大日岳手前のトラバースするピークだが、初めて視界が開けたので、これからガスが晴れることに期待が持てた。



奥大日岳の山頂にて

岩混じりの道を慎重にトラバースする。今年は、コバイケイソウの当たり年のような。次々に群落が見れる。ハクサンフウロも咲いている。時間的に厳しくなってきたが、15時を引返す期限として、行けるところまで行くことにする。トラバースを終えた頃、振り返ると立山がきれいに姿を現した。シナノキンバイの群落もあったし、念願のミヤマクロコリも咲いていた。

遅くなったが、14時40分に奥大日岳に到着した。残念ながら剣岳方面はガスに巻かれて

見えないが、立山をバックに記念写真を撮影する。足下にはトウヤクリンドウも咲いていた。時間が迫っているのだから、ゆっくりできない。早々に山頂を後に下山にかかる。夜行での寝不足が応えているのだろう、歩みが非常にゆっくりになる。山腹をトラバースして下り、反対側の風景が開けた時、剣岳がその偉容を現してくれた。視覚障害者のIさんが、剣岳のというのは特別な山なのかと聞く。やはり、全山岩山で、山頂に到達することがもっとも困難な山で、姿も三角錐のまさに「山」と言える山なんだと答える。



奥大日方面から立山を望む

室堂乗越手前で、雷鳥荘に電話を入れ、到着が18時を過ぎそうなことを連絡する。ようやく室堂乗越に到着し、雪渓を慎重に越えて下っていく、木道に達し、沢にかかる木の橋を渡る手前で、数人の人に先に雷鳥荘に向かってもらう。視覚障害者のNさんとIさんは、かなり疲れたようで、残りのメンバーとゆっくり登っていき、ようやく雷鳥荘に到着した。

雷鳥荘では、先に夕食を取り、温泉に入って汗を流す。夜、外に出てみると、満天の星空だった。

7月31日

今朝は、すばらしい天気です。夜が明けた。昨日の状況で、別山から雄山への縦走は止め、一ノ越から雄山の往復に変更する。昨日は、登る気力の湧かなかった人も、一晩寝て元気が出てきたようだ。まずは、室堂バスターミナルに行っ

て、コインロッカーに不要な装備をデポする。

そこから石畳の道を一ノ越に向けて登り出す。私は室堂山荘に行き、帰りに入浴できるか確認する。雪渓を何度か横切り、最後の登りにかかる。ジグザグの道は7回のつづら折りとなっていた。

ハクサンイチゲやチングルマ、コバイケイソウ等を見ながら登ると、イワツメクサも咲いていた。小さな紫色の花は、何だろうか？残念ながら、良く分からなかった。

一ノ越に着くと、霞の中からわずかに烏帽子岳や野口五郎岳方面が見えていた。竜王岳は岩ばかりの姿で、聳えていた。ここから、急な登りが続くが、人がものすごく多い。順番待ちなどをしながら、ゆっくりと登っていく。岩の上に、チシマギキョウが咲いていた。途中の傾斜の落ちた広いところに着くと山頂の社務所が間近に見えてきた。ここから最後の登りをがんばって、ようやく雄山の三角点に到着した。一時は登れないのではないかと考えていた人も登ることができ、全員で山頂に立てて良かった。山頂からは、鋭く尖った針ノ木岳も見えた。また南部に目をやれば、五色ヶ原と越中沢岳、そしてうっすらと薬師岳も見えていた。

標高3003mにある雄山神社は、参拝料が取られることと時間的なこともあって、行くのを止めここで昼食とする。雲行きも怪しいため、早々に下山にかかる。岩の道が続くため、慎重に下る。それでも、登りより遙かに短い時間で、一ノ越に戻ることができた。ここから、バスターミナルにデポした荷物を取ってきてもらうため、3人の人に先に下ってもらう。後のメンバーは、ゆっくりサポートしながら、下っていく。あともう少しで室堂山荘だということなので、急に雨が降り始めた。雨具を付けて先を急ぐ。ようやく室堂山荘に着くと、まだ先発の3人が来ていなかった。みんな揃うのを待って入浴をし、バスターミナルに行って、バスに飛び乗る。

あとは、富山駅のステーションビルを出たり

入ったりしながら、やっと場所を決めて、今回の打ち上げをする。すっかりできあがったおかげで、夜行高速バスの中では、ぐっすりと眠ることができた。

#### コースタイム

7/30 室堂(8:45)...雷鳥荘(9:40,10:00)...別山

乗越 (11:25,11:50) ... 奥大日岳 (14:40,14:55)...雷鳥荘(18:40)

7/31 雷鳥荘(7:20)...室堂バスターミナル(8:10) ... 一ノ越(9:55,10:20) ... 雄山(11:55,12:20)...室堂山荘(14:50)

### 会津駒ヶ岳(8月6日～7日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

会員外(健常者1名)

8月6日

会津高原駅からタクシーで登山口に向かう。檜枝岐村では、スキー場にシートで保存していた雪を使って、滑ったりする夏の雪祭りをしていった。

林道終点の滝沢登山口から急な階段を登り始める。道はジグザグについているため、よじ登るほどの急登ではないが、標高が低く暑いため、汗が玉のように噴き出してくる。汗を拭き拭き登ると、樹林が切れたヘリポート跡に到着し、ここでお昼にする。ここに休んでいたお二人とは、小屋でもご一緒し、帰りの駒ノ湯でもご一緒することになった。

さらに続く急な登りを頑張り、降りてきた人に「水場は近いですか?」と聞くと、自分の持っていた水筒を出して、触らせてくれる。こんなに冷えた水が飲めますよと言うことだった。そこから、少し行くと念願の水場だった。

わき水が設置されたパイプから、勢いよく流れている。ペットボトルに入れると外側にすぐ水滴ができるくらい冷えている。とにかく冷たくて美味しい水だった。しかし、ここで各自3リットルの水を担ぐことになる。今回の最年少16歳のS君には5リットルを持ってもらった。それでも、あまり重くないと、力強い言葉。

水場を過ぎると、傾斜が落ち、緩やかに登る

ようになる。足下には、マイヅルソウが実を付けていた。他にも、タケシマランのサクランボのような赤い実や、ニガナ、コバイケイソウなどが咲いていた。



ワタスグに止まったアキアカネ

山頂まで、あと何キロという標識に励まされながら、少しずつ高度を稼ぐ。登るにつれて、ツマトリソウやアカモノ、ミヤマリンドウなどの花が出てきた。樹林の切れ間からは、大戸沢岳が見え始め、振り返ると田代山も見えてきた。行く手には、駒ヶ岳と駒ノ小屋が見え始めると、ちょうど良いベンチがあった。ここで休憩し、木道の道を登っていく。左手には尾瀬の燧ヶ岳が見えている。足下には、チングルマの綿毛が風に揺れている。

登り付いて小屋に着くと、S君は一人で山頂を往復し、あっという間に戻ってきた。

小屋で受付を済ませ、外のベンチで夕食の準備を始める。貴重な水を大事に使おうと、今回はレトルトを中心に持ってきてもらった。Nさんが持ってきてくれた貴重な焼酎を一口ずついただいて乾杯し、豊富なつまみをいただく。

8月7日

夜は、星空が見えたが、夜が明けるとガスに巻かれて何も見えなかった。それでも、時折、上空に青空がのぞき、雨の心配はいらなかったが、Yさんが持ってきたサブザックに雨具や水を入れていただき、山頂を目指す。

木道の周囲には、ハクサンコザクラやコイワカガミ、チングルマが美しい。しかし、何といてもコバイケイソウの存在感は大きかった。今年はどこに行っても、コバイケイソウは大群落を作っているようだ。



会津駒ヶ岳山頂にて

霧に巻かれた幻想的な木道を歩き、山を左から巻いて、巻き道との分岐に着くと、山頂はすぐだった。大きな木でできた立派な山頂標識を囲んで、記念写真を撮り、すぐに中門岳に向かう。周囲は、イワイチョウやチングルマ、ハクサンコザクラ、ミヤマキンポウゲ、そしてコバイケイソウの群落が次々に現れる。霧に巻かれながらも、次々に現れる池塘とお花畑を楽しみながら進むと、大きな池の前に飛び出し、そこに中門岳の標識があった。山頂らしくないが、この周辺一帯が中門岳のようだ。池からさらに行き止まりのところまで行ってみる。

行き止まりに来ると、キンコウカが咲き、モウセンゴケが蕾を持ち上げていた。良い場所だなと思っていると、不意にガスが切れ、太陽が姿を現した。ガスの切れ目からは、低い位置に雲海に浮かぶ山並みが見え、足下のチングルマは、輝いた露を綿毛にいっぱい蓄えている。一

瞬の時間だったが、輝きに満ちた湿原の美しさは、幻想的で儼にいつまでも余韻を残してくれた。一瞬だったからこそ、その余韻が大きかったのかも知れない。



中門岳突端の湿原にて

すばらしい宝物を得たような気持ちを胸に、駒の小屋に引き返す。小屋に預けておいた重いザックを背負って、下山にかかる。下るにつれて青空が広がってきた。早朝、登山口を出発した人たちが次々に登ってくる。



チングルマの綿毛が露に濡れて輝いていた

登りの時に撮らなかった、タケシマランやマイヅルソウの実を撮影しながら下る。すると、「フィルムを持っていませんか？」という声が耳にはいる。ちょっと驚いたが、本当に困っている感じだったので、リバーサルフィルムならありますと言うと、喜んで受け取っていただき、少しだけ得をしてしまいました。

水場で冷たい水を飲み、ぐんぐん下って、林道に出る。そこから近道を通って国道に出て、御池(みいけ)側に少し行ったところにある駒ノ湯に入って汗を流した。ビールで乾杯し、会津高原駅に向かうバスの中は、爆睡状態で、あ

っという間に駅に着いてしまった。

### コースタイム

8/6 滝沢登山口(11:30) ... ヘリポート跡  
(12:10,12:30)...水場(13:25,13:50)...駒ノ  
小屋(16:00)

### 蝶ヶ岳(8月19日~21日)

参加者 会員(障害者9名、健常者20名)

会員外(健常者1名)

ゲスト 山野井ご夫妻

8月19日

今回は、徳沢までの人や夜行で来る人、蝶ヶ岳まで登る人、他にもいろんなケースの人がいて、人数把握が難しかったが、途中乗車の人たちも、全員揃って上高地に到着した。

今回は、山野井泰史さんと妙子さんご夫妻に参加していただき、山の話をお聞きすることが一番の楽しみだ。

歩き始めると、すぐに雨が降り始め、雨具を付けることになってしまった。河童橋を渡り梓川の右岸にある遊歩道を歩く。ハンゴンソウやオタカラコウがたくさん咲き、ノコンギクやキツリフネ、サラシナショウマも少しだが咲いていた。木道や車道を歩き、明神橋を渡って明神で休憩。雨もほぼ止み、雲も薄くなってきたようだ。

山野井さんご夫妻にも視覚障害者のサポートをしていただいたりしながら、徳沢を目指す。雨雲も去り、梓川上流には青空が広がってきた。今日の宿泊場所、徳沢ロッジに着くと、涸沢から降りてきたNさんと合流する。ロッジでは、

8/7 駒ノ小屋(5:25)...会津駒ヶ岳(5:45.5:50)...  
中門岳(6:20,6:50)...駒ノ小屋(7:30,7:50)  
...水場(9:00,9:20)...滝沢登山口(10:45)...  
駒ノ湯(11:15)

風呂に入ることができ、上高地から歩いてきた汗よりも、家から新宿までの汗を流す。



明神橋にて

食事が終わってから、部屋に全員集まって山野井さんの話を聞く。ギャチュンカンで雪崩にあった時の話は、どうしてそんな極限状態でも淡々と帰る作業を進めることができたのか、山野井さんご夫妻の精神力の強さに、ただ感心するばかりだった。

アルコールも程ほどに、話の後は、すぐに部屋で眠りにつく。

8月20日

体力的に自信のない人もいるので、今朝上高地から登ってくる人たちより先に出発することにする。後発の人たちとの合流を考え、Nさんに徳沢で待っていてもらう。

徳沢の草原を抜け、いきなりの急登にかかる。長堀山(ながかべやま)まで延々続く急登だが、まずは2,000m付近にある平坦地を目指して登る。後発の人たちとは、無線で交信し、高度計の標高でお互いの位置を確認しあう。途中で、山野井さんは、目をつぶって奥さんからサ

ポートしてもらっていた。実際に見えなくて歩く感覚を感じようとする山野井さんに、驚いてしまった。



Aさんをサポートする山野井さん

平坦地には、タケシマランの赤い実があり、写真に収める。すでに後発の人たちはすぐ近くに来ているようだ。ここから、少し登ると、後から数人の人たちが登ってきたので、「ヤッホー」と声をかけたが反応がなく、違うパーティーだった。さらに、しばらく進むと、今度こそ、下からにぎやかな声が聞こえる。2,135m付近で、合流し、数年ぶりであったかのように、にぎやかに再会を喜び合う。

ここから、右側にトラバースするようになると、ようやく傾斜が落ちてきて、登りも楽になる。山野井さんに代わる代わるサポートをしていただいたり、歩きながらいろんな話をしながら登っていく。



妖精の池にて

途中2,480mの標高点にも気づかず、緩やかに登っていくと、長堀山の山頂に飛び出した。ここからは時折現れる二重山稜や湿地を通過していく。途中で昼食を取り、妖精の池に飛び

出すと、一気に高山植物が増えてくる。ハクサンフウロ、ミヤマアキノキリンソウ、コウメバチソウ、ヒメコゴメグサ、クルマユリ、エゾシオガマ、トリカブト、ムカゴトラノオなどなど。さらに登って森林限界来到ると、タカネヤハズハハコやイワギキョウなどさらに増えてくる。行く手には、今日泊まる蝶ヶ岳ヒュッテも間近に見えてきた。振り返ると、一瞬だが、濁沢が見えた。



蝶ヶ岳山頂にて

山頂で記念写真を撮り、ヒュッテに向かう。ヒュッテで、ビールで乾杯し、Mさんが買ってきてくれた4本のワインもあっという間になくなってしまった。外に出ると、薄くなった雲の向こうに穂高連峰が何とか見えていた。



山野井さんを囲んでの談笑

ヒュッテには、名古屋私立大学医学部の方が、ボランティアで診療所を開いていた。Aさんは、高山病の治療をしてもらい、元気になって帰ってきた。夕食の後は、山野井さんを囲んで、山の話に花が咲く。お疲れのところ、お二人には、お世話になりました。お二人の話の後は、食堂でさっきの医師のたまごたちが、高山病な

どの講習会を開いてくれた。それをうつろな頭で聞き、終わると共に眠りについた。夜、外に出てみると、星空が広がり、北穂の山頂には、北穂小屋の灯りがよく見えていた。

8月21日

昨晚の星空に好天を期待したが、朝起きると一面のガスの中。

山野井さんは、小屋の中でも普通に視覚障害者の人たちのサポートをしている。初めて視覚障害者の人たちと接する人には、どのように接したらよいか分からない人が多いのに、やはり極めて困難な岩壁を当たり前のように登っている人だから、サポートも当たり前だと感じられるのだろうか。どちらにしても、山仲間アルプが実践したいこととしっかりと通じているように感じた。



タケシマランの実

朝5時に朝食を取り、早めに出発する。ハイマツ帯を抜け、お花畑を歩くと、すぐに妖精の池に着いた。さらに、緩やかな道を下り、こんなところをよく登ってきたねといいながら、急な道を慎重に下っていく。梓川の白い河原が次第に近づき、ようやく足下に徳沢園の赤い屋根が見えてきた。徳沢園の前のベンチで、ホッと一息。ここで待っていてくれたSさんとYさんが合流する。カメラマンのWさんが、業務用に止めてある車に乗りたい人がいたら乗せてくださるという。疲れている人を中心に乗せていただく。



ペジテングタケ(毒キノコ)

アルペンホテルでお風呂に入りたいため、少々ペースをあげて上高地を目指す。バスの乗車券を確保するため、TさんとHさんは先を急いでバス停まで行ってくれた。河童橋の前で、車で送ってもらった人たちと合流し、さらに蝶ヶ岳に登らなかったTKさんのグループと合流して、河童橋をバックにカメラマンのWさんから記念写真を撮っていただく。

あとは、アルペンホテルで汗を流し、ビールで乾杯。私は、Nさんから寄付していただいた本「共に楽しむ」を山野井さんとWさんにプレゼントさせていただく。上高地から松本まで直通の路線バスは、ちょっと羽目を外しすぎてしまい、反省点を作っていました。いろいろありましたが、みなさんの協力のおかげで、30人もの大勢の方に参加していただき、事故もなく安全に、山野井さんご夫妻との初めての山行を楽しむことができました。みなさまのご協力に心から感謝いたします。

#### コースタイム

8/19 上高地(13:30)...明神(15:10,15:20)...徳沢(16:30)

8/20 徳沢(7:10)...2,135m(10:40 後発と合流)...長堀山(13:20)...蝶ヶ岳(15:00)

8/21 蝶ヶ岳ヒュッテ(6:10)...長堀山(7:10,7:25)...徳沢(11:30,11:40)...上高地(13:10)

## やったー！ 大雪縦走3日間

「ねえ、大雪すごかったんだよ！」「へえ、どんなふうにな？」「どうって、もうなにしろスゴイのよ。」言いたいことがいっぱい、一気に全部話したい、でもそれでは聞いてるほうはわからない。それで説明できるように頭の中を整理してみました。

### 1. 花いっぱいいっぱいの大平原

何しろ一面に高山植物がびっしりなのです。誰かが種まいてガーデニングしたかと思うほど。弱視の私には細かい区別はつかないけれど、白・黄色・紅・紫・うす緑と敷き詰めたように咲いているのはわかる。うっかりすると踏みそう。Sさんいわく「あまりの光景に笑いが止まらない。」

### 2. 野生生物を身近に感じる

まず、登山口の銀泉台ヒュッテで夕食後にキタキツネが出た。翌日からはノゴマなどの野鳥がかなり近くに見られ人をあまり恐れない様子。白雲避難小屋ではリスがちょろちょろしていたらしいし、ヒサゴ沼避難小屋ではヒグマが雪渓を渡るのを遠望した。忠別沼では、意地悪おばさんたちに見つかったのろっこいサンショウウオが必死に岩陰に隠れようとしていました。希少種の蝶も見られたようですが飛んでいるのを見つけるのは私には無理。力尽きて地面にとまっているアゲハは見えました。警戒心の強いといわれるナキウサギの「キキッ」という声も何度か聴きました。

そんなことがあったので、カムイ天上からトムラウシ温泉までのひっそりと薄暗い樹林帯では「熊が出て不思議はない」と不安を感じ大きく鈴を鳴らしながら下山しました。

### 3. なんという風景！

山上というのに延々と平原が続いているのです。白雲小屋を出てからは花の魔力のせいもあって4時間近くもさえぎるもののない大平原を歩いていました。それから名前のついた沼も名なしの沼もいくつも出てきて、雪渓と木道が繰り返されます。トムラウシ山直下の北沼は不思議な青みを帯びて清清しく、背景の雪の模様をつけた山が映し出されています。ここは本当に日本なのか？

### 4. 初めての、避難小屋を使う縦走登山

丸3日間、10キログラムを背負って平均10時間歩き続ける。これができたという達成感私の今後の人生で大きな力になるでしょう。最終日はもう荷物を捨てたい気分、カムイ天上で宿に電話が通じたときの喜び、そして短縮コースへの送迎はできないと言われたときの失望……。表情がゆがんでいたのではと思います。

最小限の荷物しか持っていかなかった私はみなさんにオンブの部分が大きかったと思いますが、皆さんのお荷物にならないようがんばりました。それを寛容に許してくださった皆さんの優しい心遣いをジンワリと感じています。

時々「こんなことがあったな」とポロポロ思い出しますが半年ぐらいは小出しにして楽しめるかなと思います。少しは山行の様子が伝わったでしょうか？

記：M

蝶ヶ岳を登る - 山野井ご夫妻と共に -

北アルプス蝶ヶ岳は人間の骨格に例えたら  
手足の部分と言えるのではないか  
それは繊細で暖かい  
雲が切れて目の前に雄々しい明神岳が現れた  
この確固たる信念を持った弟をいつも  
そばでやさしく励ます兄の様でもある  
陽射しの漏れる樹林と岩石の山道を私達は登る  
ヒマラヤで命を削ったあの偉大な山野井ご夫妻が  
慈愛の眼差しで手を差し伸べてくれた  
一緒ががんばって登ろう  
やがて強風が吹き荒ぶ頂上に立つことが出来た  
2,677Mの標識に手を添えて涙を流す仲間がいる  
その時私の抱いたエゴや偏見にささいな優越感は  
霧となって飛んでいった  
蝶ヶ岳は自然をこよなく愛する人々を  
決して裏切る事はないし失敗をも許してくれる  
これはゆるぎない真実だと  
私は心の中で思った

記：I

## 講習会報告

### 気象講習会(6月24日)

参加者 会員(障害者2名、健常者10名)

市川市文化会館で19時から「夏山登山と台風」について講習を行った。

参加者が少な目だったが、これから夏を迎えるため、とても参考になるお話を伺うことができた。

気象研究家の幣先生を講師としてお招きし、

## 各種報告事項

### ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、8月末日現在 約20500のアクセスがありました。ホーム

ページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、メーリングリストも運営していますので、パソコン

コンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

### 広告掲載のお知らせ

S E S 山岳映画サロンの「山岳映画の夕」のパンフレットに山仲間アルプの広告を掲載しま

した。

## 今後の計画

### 2005年度活動計画

10月以降の事業計画を別紙に掲載しています。秋は日帰りの山を主体に計画しています。荒神山(こうじんさん)は、帰りに駅にある温泉に寄る計画にしています。ぜひご参加ください。

また、11月20日のふれあいハイキングと12月18日の忘年山行は、下見後、案内をお送りします。

### 感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思っ

ているなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

### 個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

## 会員情報

### 新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。詳しくは、会員名簿をご覧ください。(敬称略)

賛助会員 3名

## 編集後記

### ・理事長のつぶやき

蝶ヶ岳では、山野井泰史さん、妙子さんご夫妻に参加していただき、70度の氷と岩の岩壁で雪崩に流され、そこから脱出する時のお話を伺うことができました。雪崩に遭い目が見えなくなって、普通の人なら、発狂してしまいそうな状況の中で、失っても一番困らないという理由で、氷点下40度の中で小指を使って素手で岩の割れ目を探し、そこにハーケンを打ち、降りるという作業を淡々と繰り返したそうです。雪崩に流されて中吊りになった妙子さんは、氷の斜面にピッケルとアイスパイル、そしてアイゼンを打ち込み、じ

っと4時間以上も壁で待っていたそうです。

そんなすごい実力と精神力を持ったお二人に、サポートもしていただきました。また、小屋の中の移動やトイレなどの介助も行っていただきました。普通の人なら、初めて視覚障害者の方と接した時にはどうして良いか分からないものなのですが、誰から依頼されるわけでもなく、当たり前のように淡々と行っている様子に、やはり大岩壁を淡々と登り降りてきたお二人の心の広さなのかと強く感じ入りました。

### ・次回発行予定は、10月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

